

ゆりかもめ 全駅のトイレに「光警報装置」を導入 お客様の安心をサポートします

この他 音声認識システムを活用した表示ディスプレイ
スマートフォンで利用できるインターホンの運用も開始しました

1 光警報装置の導入

株式会社ゆりかもめ（本社：東京都江東区、代表取締役社長：安部 文洋）は、音による警報に加え、光の点滅により火災の発生を知らせる光警報装置を、令和7年10月頃までに、ゆりかもめ全16駅へ導入します。

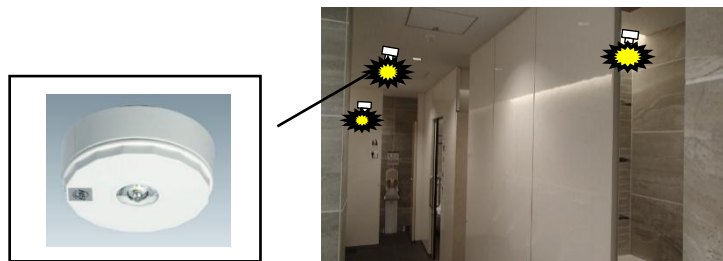
当社では、2025年11月に迎える開業30周年、更には、開催が予定されている「第25回夏季デフリンピック競技大会 東京2025」に向け、高齢の方や聴覚障がいのあるお客様がより安全にゆりかもめをご利用いただけるよう、ユニバーサルデザインの充実化を図る取り組みを進めています。

【設置完了日】

令和7年10月頃（予定）

【設置場所】

全16駅 各トイレ98箇所、手洗い通路35箇所 全133箇所



駅トイレへの導入イメージ

2 ユニバーサルコミュニケーション機器の運用開始

光警報装置の他にも、外国人観光客や聴覚障がいのあるお客様が駅窓口でスムーズに案内を受けられるよう、各駅の状況に合わせたユニバーサルコミュニケーション機器（音声認識システムを活用した表示ディスプレイ「YYSystem」、「スマホでインターホン」）の運用を開始しました。

◆音声認識システムを活用した表示ディスプレイ「YYSystem」について

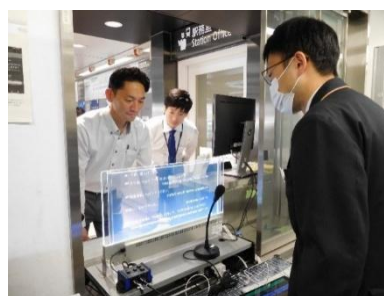
「YYSystem」は、駅構内のような騒音環境の中でも、リアルタイムに音声を認識し、透明ディスプレイに文字を表示するシステムです。

31言語のリアルタイム翻訳機能があり、キーボード入力にも対応していることから、外国人観光客や聴覚障がいのあるお客様にも、安心してご利用いただけます。

【運用開始日】

令和7年4月14日（月）

【設置場所】 ゆりかもめ 計4駅5コーナー
(新橋駅東口、新橋駅西口、台場駅、市場前駅、豊洲駅)



<参考> 「YYSystem」の詳細については、以下リンク先をご参照ください。

→ <https://yssystem.com/>

◆「スマホでインターホン」について

「スマホでインターホン」は、専用ボードにお客様のスマートフォンをかざすと、専用アプリがなくとも駅係員に接続され、通話による対話ができるインターホンサービスです。

音声での対話だけでなく、キーボード入力による文字でのやり取りも可能です。お持ちのスマートフォンの設定言語への自動翻訳により、13言語に対応しており、外国人観光客や聴覚障がいのあるお客様とのコミュニケーションの更なる向上を図ります。

【運用開始日】

令和7年4月29日(火)

【設置場所】

ゆりかもめ 計13駅 改札口、精算機付近

(汐留駅、竹芝駅、日の出駅、芝浦ふ頭駅、お台場海浜公園駅、台場駅、東京国際クルーズターミナル駅、テレコムセンター駅、青海駅、東京ビッグサイト駅、有明テニスの森駅、市場前駅、新豊洲駅)



「専用ボード」イメージ



設置イメージ

<参考> 「スマホでインターホン」の詳細については、以下リンク先をご参照ください。

→ https://www.yamaha.com/ja/news_release/files/news/22070701/pdf/2207070101.pdf

※ ユニバーサルコミュニケーション機器の導入に当たっては、東京都都市整備局の「鉄道駅におけるユニバーサルコミュニケーションシステム整備事業費補助金」を活用しています。



30周年記念ロゴマーク

光警報装置に関するお問い合わせ先
技術部 電気保安課 03-3529-7785 (9:00~17:00)

ユニバーサルコミュニケーション機器に関するお問い合わせ先
運輸部 お客様サービス推進課 豊洲駅 03-3533-5911 (6:00~23:00)